

スピーカー：大阪ガス企画部 IR 部長 松井 宏樹

大阪ガスの IR 部長の松井です。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2025 年 3 月期 第 3 四半期決算について、お手元の資料、または、当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3 ページをご覧ください。

■P3 25.3 期 第 3 四半期決算のポイント

- 25 年 3 月期 第 3 四半期決算のポイントです。
- 売上高は、1 兆 4,441 億円となりました。国内エネルギー事業で電力販売量が増加したものの、LNG 販売量が減少したことや、原料費調整制度に基づきガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前年に比べ▲660 億円減収となりました。
- 経常利益は、1,255 億円となりました。前年に比べ▲490 億円の減益ですが、前年の大きなタイムラグ差益の反動など、一過性要因が主な減益理由です。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は 908 億円となり、計画通り順調に推移しています。
- 財務健全性指標についても、中期経営計画で示している水準を確保しています。

■P4 25.3 期 第 3 四半期決算の対前年比較(経常利益)

- 4 ページでは、経常利益の前年差の内訳をご説明します。
- 経常利益の前年差▲490 億円の大部分は国内エネルギー事業ですが、その主な要因はタイムラグで▲312 億円の減益となっています。
- ガス事業粗利は、販売量が気温影響等で 18 百万 m³ 減ったこともあり若干の減益 (▲9 億円)、電力は需給調整市場での利益増や、販売量が 1,061 百万 kWh 増えたことにより+73 億円の増益、国内エネルギーセグメントのその他では、関係会社の「大阪ガスインターナショナルトランスポート」や「大阪ガスネットワーク」で費用が増えたこと、LNG 販売量が前年多かった反動で減少したことなどにより、▲170 億円の減益となりました。
- 続いて、海外エネルギーセグメントは前年からほぼ横ばいとなっています。
- 「Osaka Gas USA」は、フリーポート LNG 基地の一時停止などの影響で減益ですが、「Osaka Gas Australia」の上流事業が円安影響などで増益となり、「Osaka Gas USA」の減益を相殺しています。
- ライフ&ビジネスソリューション事業は、「オーガス総研」のシステム開発が前年より減少したこと等により、セグメント利益が▲25 億円の減益となっています。
- 「その他」で▲46 億円の減益となっていますが、こちらは営業外損益が前年度の一時的増益の反動で減益となったことなどによるものです。

■P5 25.3 期 見直し修正について

- 5 ページで、今回の通期見通しの修正についてご説明します。
- 足元の為替水準をふまえ、第 4 四半期の為替前提を 1 ドルあたり 145 円から 150 円に変更します。
- 連結の売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、2024 年 10 月 31 日公表の見直しからの変更はありませんが、国内エネルギーセグメント内の増益・減益がありますので、次のページでご説明します。

- また、BS の見通しも一部更新しています。円安を織込んだ結果、年度末の為替換算調整勘定等が増え自己資本も増加する見通しですので ROIC、ROE 等の数値を更新しています。

■ P6 25.3 期 見通しの対前回見通し比較(経常利益)

- 6 ページでは、国内エネルギーセグメント内で今回、通期見通しを更新した項目をご説明します。
- 円安により第 3 四半期までのタイムラグ差益が縮小したこと、および第 4 四半期の為替前提の変更も踏まえて、タイムラグ差益を▲30 億円、下方修正します。
- また、高気温で第 3 四半期までのガス販売量が減少した影響などを織込み、ガス事業粗利を▲30 億円、下方修正します。
- 一方で電力事業は、需給調整市場の利益増や販売量増加等の実績を織込み、+60 億円上方修正しております。
- なお通期の販売量見通しについても、第 3 四半期までの実績をふまえて更新し、ガスは 42 百万 m³ の減少、電力は 616 百万 kWh の増加としております。

■ P7 25.3 期 見通しの対前年実績比較のポイント

- 7 ページは通期見通しの前年比較を載せています。
- 通期の売上高は、LNG 販売量の減少などにより、前期に比べて▲970 億円減収の 1 兆 9,860 億円となる見通しです。
- 経常利益の前年差の概要は右側の図の通りです。
- 前年は、営業外損益で原料調達に伴う為替差益等があり、タイムラグ差益も大きく生じたので、それらの一過性増益の反動で、前期に比べて▲735 億円減益の 1,530 億円となる見通しです。
- また、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に比べて▲206 億円減益の 1,120 億円となる見通しです。

■ P8 25.3 期 見通しの対前年実績比較(経常利益)

- 8 ページでは、25 年 3 月期見通しと前年実績との経常利益の差異理由を、セグメント別に分解しています。
- 10 月公表の見通しから大きな変更はありませんが、先ほど申しました通り、国内エネルギーセグメントの「タイムラグ」、「ガス事業粗利」、「電力」の利益見通しを更新しています。

■ P9 成長投資と株主還元の実績と見通し

- 9 ページ左側には成長投資の実績と見通しを載せています。
- 成長投資の実績 1,640 億円は計画通りの進捗であり、見通し 2,060 億円に変更はありません。
- 9 ページ右側には株主還元の推移を載せています。今期は、すでに公表している通り、自己株式取得上限 400 億円、一株当たり配当 95 円を予定しています。

以降は説明を割愛いたしますが、

10 ページからは、第 3 四半期実績の前年との比較、

16 ページからは、25 年 3 月期の修正見通しと、前回見通しとの比較、

22 ページからは、25 年 3 月期見通しと 24 年 3 月期実績との比較を記載しておりますので、ご確認ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。